

南半球便り（その5）：天皇誕生日レセプション

3月11日

（1）一年で最も大事な行事

少し旧聞に属しますが、2月25日に大使公邸で行った天皇誕生日レセプションについて、ご報告します。大使館をはじめとする在外公館にとって、数ある行事のうちで何よりも大事なものが、この天皇誕生日レセプションです。どの国にも、「ナショナル・デイ」（独立記念日等）を祝う式典がありますが、日本にとっては天皇誕生日レセプションがそれにあたるからです。

豪州政府の閣僚・次官クラスの要人のみならず、議員、軍人、財界人、主要ジャーナリスト、第三国の大使クラス等が集い、また、在留邦人の方々も参加されます。天皇誕生日を盛大にお祝いすることはもちろん、関係者による常日頃の日豪関係増進の尽力に対して深い謝意を表すとともに、豪州で「日本」を売り込む絶好の機会となります。



ギレスピー豪日議連会長と山上大使夫妻



（左から）ウォーレン・エンチ連邦議員、山上大使夫人、スーザン・リー環境大臣、山上大使、古谷公使

（２） コロナ禍の中での決行

当然のことながら、今年は実施するかどうか、随分と議論をしました。最終的には、キャンベラの所在する首都地域（ACT）において新規市中感染者が 7 ヶ月も発生していなかったこと、ACT の規則によれば屋外を活用して「セーフティ・ディスタンス」をとれば 500 人までのレセプション行事が認められていたこと等を踏まえ、豪州政府外務貿易省とも密接に相談しつつ、実施することとしました。

その代わり、コロナ予防策には万全を期しました。（ア）各所に消毒液を配置、入口での体温測定（イ）食事は予め盛り分けてサーブ、（ウ）レシービング・ラインで来客を迎えて挨拶する大使夫妻、防衛駐在官夫妻はマスク着用、（エ）式典でのスピーチは来客から離れた公邸ベランダ上から実施、といった諸施策を講じました。

（３） 大成功

結論から言えば、開催して大成功でした。事前の予想を遙かに上回る 350 名近くの方が出席され、館員夫妻と予定の時間を越えて和やかに歓談していただくことができました。多くの出席者の方から、「コロナ禍でこのような親密な行事がなくて物足りなく思っていたところ、日本が敢行してくれた。タイムリーで実に良かった。」と好意的な評価が多数寄せられました。

手前味噌になるかもしれませんが、持てるものを全て活用して日本らしいおもてなしをすることができました。例えば、

（ア） 庭の活用

キャンベラの公邸には手入れの行き届いた美しい日本庭園があります。庭園を開放し、公邸の建物に招客が集中しないようご案内し、「三密」を回避しました。季節が南半球では夏であったこと、また、当日朝は停電さえ発生するような激しい雷雨であったにもかかわらず、夕方のレセプション時にはさわやかな「日本晴れ」になった天候も幸いました。



公邸の日本庭園

（イ）和食メニュー

日本大使公邸に来られる招客は、日本食に期待しています。そこで、立食でも食べやすい日本食（冷やしうどん、海老天ぷら、寿司、牛丼、和牛ステーキ、どら焼き）をそれぞれ数百人分も小形料理人をはじめとするチーム・ジャパンで用意し、お客様に振る舞い、大好評でした。言うまでもなく、お酒は、昨今、困難に直面している豪州ワインをふんだんにサーブしました。



寿司を握る小形料理人

（ウ）民・官連携

心強かったのは、民間の各方面から誠に強力な援軍が得られたことです。例えば、茨城の一品酒造さんは、私が警察官時代に馴染んでいた茨城の銘酒を、matchamatcha さんからは大人気の抹茶ソフトクリームを出していただきました。麒麟、アサヒ、サントリー、伊藤園さんからも各種飲料をご提供頂いたのは、有り難い限りです。

さらには、本田、マツダ、三菱、日産、トヨタ、いすゞ各社からは話題の最新モデルの自動車等を公邸庭に陳列いただき、誠に壮観でした。日本の自動車産業のバラエティと技術力を強く印象づけた模様です。

公邸内では、全日空、日本航空、JR東海、富士通、日立、ダイキン、ヤマハ発動機各社からも趣向を凝らした出品をいただきました。

これらにとどまらず、要人が集まる機会にインプットすべく、話題のHE（水素プロジェクト）やクエスタコン・JAXAによる「はやぶさ1&2」のモデル陳列、JNTOによる日本観光紹介、新潟長岡市・群馬県による観光パンフレット配布、さらには東京オリンピック・パラリンピックのぬいぐるみ陳列など、関係団体・企業のご協力により、間口と奥行きの深い日本紹介ができたのではないかと考えています。



展示コーナー（左：はやぶさ1&2、右：JNTO）

（エ） 着物

実は、改めて威力を痛感したのが日本女性の着物でした。館員夫人をはじめとする 10 人以上もの和装の女性が艶やかな着物で蝶のように会場を動き回るにつれ、賛辞と感嘆の声に包まれていました。せっかくお気に入りのポール・スチュアートのスーツで格好を付けたつもりでいたのに、旧知の豪州人女性から、「着物と比べると、色あせるわよね。」と言われたのは、悲しくも嬉しい反応でした。

（オ） スピーチ

来客を代表してデービッド・ギレスピー下院議員（豪日議連会長）から日本への温かい思いとユーモアのこもったご挨拶をいただき、大変感謝しております。

私からは、「外務省の人間の話は、いつも三拍子そろっている（長く、くどく、うざい）。」と屡々言われてきたことを意識して、出来るだけ短く、かつ、ジョークを交え、新任の大使として、つたない挨拶（[原稿別添](#)）をいたしました。長年にわたって日豪両国間の「信頼」を築き上げて来られた業績に対する敬意と感謝の念を込めて、あえて例示的にいくつかの個別具体的な企業名に言及し、スポットライトを当てさせていただいた次第です。



山上大使のスピーチ

（４） 最後に

上述のコロナによる人数制限のため、本年はお招きしなかった全ての方にお声がけすることが、残念ながらできませんでした。次の機会に是非お招きしたく、何とぞご理解のほど、宜しくお願い申し上げます。

山上信吾